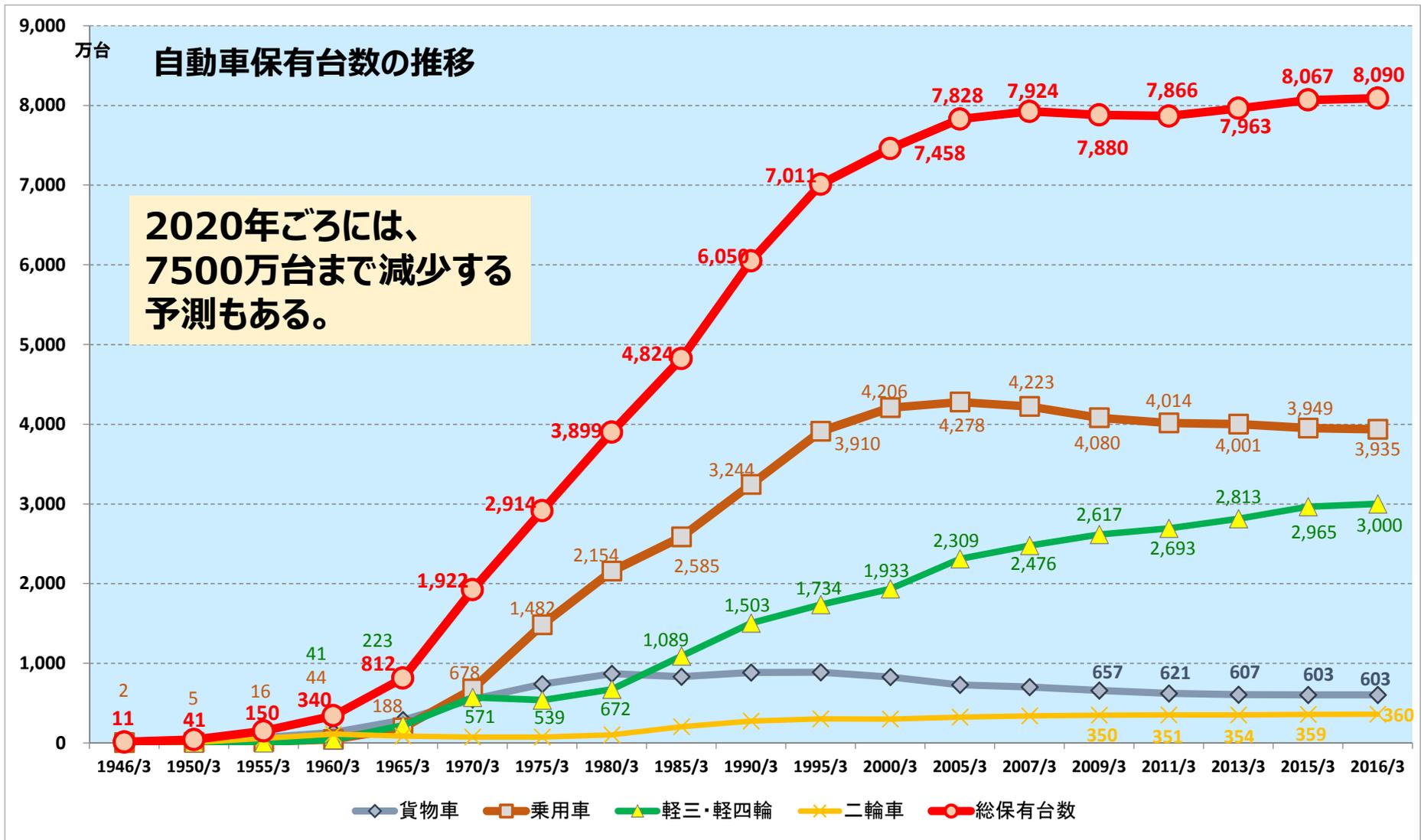


日本のリサイクル部品ビジネスと 中国解体事業の展望



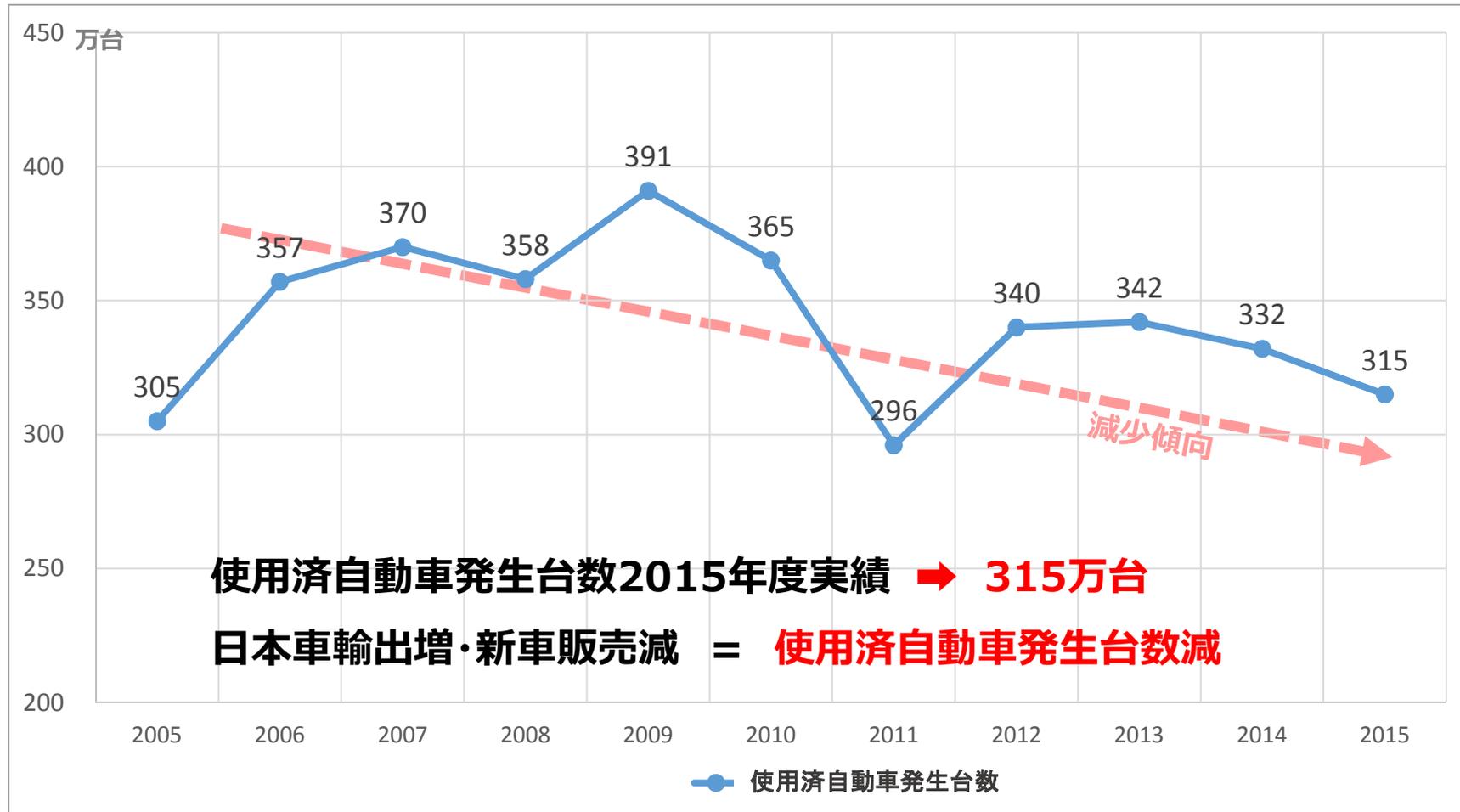
株式会社多田自動車商会

2016/11



少子高齢化等の影響もあり保有台数の伸びは鈍化傾向にある

● 日本国内の使用済自動車発生台数の推移



今年度も前年対比97%で推移しており減少傾向は今後も続くものと思われる

●人口減少における自動車産業への影響

少子高齢化 → 自動車保有台数減少
新車販売台数減少

●自動車構造の変化

自動車の高性能・高耐久化 → 使用年数の長期化

現在の日本車の平均使用年数は12.68年であり年々長期化の傾向を示す

長期化 → 故障・修理頻度の上昇 → リサイクル部品の利用増



リサイクル部品がビジネスチャンスを生む

● 中国と日本の自動車台数比較

	新車販売台数	自動車保有台数	使用済自動車発生台数
中国	2459万台	1億5500万台	206万台
日本	504万台	8090万台	315万台

※2015年度実績（中国の使用済自動車発生台数のみ2014年度実績）

● 中国と日本のリサイクルビジネスの比較

中国



使用済自動車 ➡ 鉄・非鉄を中心とした資源ビジネスが中心

日本



使用済自動車 ➡ 鉄・非鉄 及び リサイクル部品

● 2020年頃の中国の今後自動車業界予測

自動車保有台数 ➡ 2億8千万台超

使用済自動車発生台数 ➡ 1千万台超

中国の**使用済自動車の発生台数は更に拡大**していくと考えられる



鉄・非鉄の資源ビジネスだけではもったいない！

リサイクル部品を生産・販売することで事業拡大のチャンスが生まれる

● 日本における自動車リサイクルビジネスの変遷

30年以上前 ➡ 鉄・非鉄の資源ビジネスのみ

20数年前 ➡ 鉄・非鉄の資源ビジネス + リサイクル部品販売

使用済自動車の発生台数が増加していく中で資源だけでなく
リサイクル部品を取り扱うことで業務を拡大していった

- 自社のみでの在庫では顧客のニーズに応えることができない

在庫量を増やすことを目的に同業者同士のグループ化を図る

- 自動車リサイクル部品の流通拡大

自動車解体事業者のグループ化によって各事業者間の在庫を融通しあう

システム化し在庫を各事業者間で在庫の公開

整備事業者などの需要に応える機会の拡大

解体事業者のグループ化が日本の自動車リサイクル部品市場の発展に寄与

多田自動車商會が加盟しているNGPは日本の「リサイクル部品販売集團」であり、リサイクル部品流通グループとして業界1位の部品流通量を誇ります。

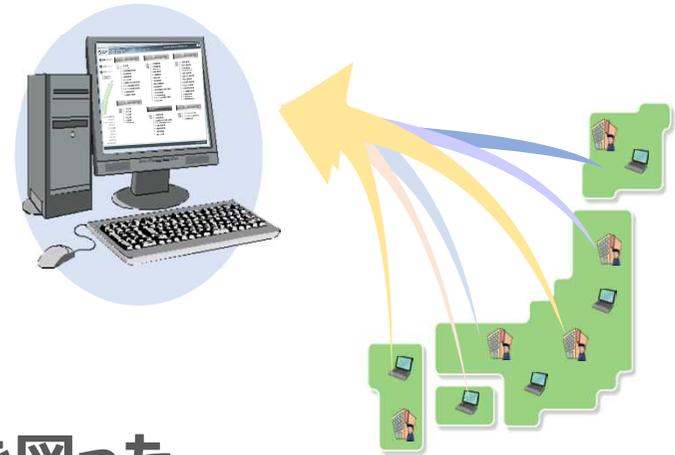
● 日本国内のリサイクル部品市場におけるNGPグループのシェア 業界NO.1の部品販売力

2015年度 年間部品販売 **543**億円



① システムを利用したビジネス

グループ事業者間のリサイクル部品を
システムを通じ共有



② 品質ルールを定め、商品の統一性を図った

③ 品質ルールを徹底させるための教育制度導入



自社の在庫だけでなく**他社の在庫も安心して販売**できるようになり
売り上げが大幅にアップ!

●事業概要

中国国内において
「**大連多田再生資源開発有限公司**」設立

- ・ 自動車リサイクル工場の設計
- ・ 使用済自動車解体手法
- ・ リサイクル部品生産の技術協力



NGPと多田自動車商会が
中国国内の解体事業者をサポート

